

社会福祉法人

近江ちいろば会 20周年記念誌

～今日まで、そして明日から～

基本理念

人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい

ルカによる福音書6章31節

目次 contents

ごあいさつ	1
祝辞／創立20周年を迎え	2
近江ちいろば会20年の歴史／業績推移2015	5
歴代の理事・施設長・事務長	9
写真で見る成長の足跡	10
20周年イベント	18
創立20周年記念 座談会	22
法人を育ててくださった人たち	28
ご利用者・ご家族の声	30
魅力発信経営報告書	34
地域貢献および交流活動	41
各事業所 現在のスタッフ	43
法人概要	45

ごあいさつ

20周年によせて



社会福祉法人 近江ちいろば会

理事長 奈良 譽 夫

「光陰矢の如し」この言葉通り、近江ちいろば会が湖南市菩提寺の地で事業を開始して早20年が経ちました。

この間、湖南市の行政の方々や地域の方々にずいぶん温かく支えられ、折に触れ励ましのお言葉を頂きましたことに改めて感謝申し上げます。

2015年9月4日(金)にクサツエストピアホテルにて開催いたしました20周年記念祝賀会には、湖南市長 谷畑英吾様をはじめ多くのご来賓の方々にご参加いただきました。今までの歩みと共に、これからのビジョンを確認し、職員一同のベクトルを合わせる機会になり大変有意義に終えることができました。ご参加いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

また、11月7日(土)に甲西文化ホールにて開催いたしました地域講演会では、認知症介護研究・研修東京センターの永田久美子先生に「認知症とともに、よりよく暮らす」をテーマにご講演をいただきました。160名にも及ぶたくさんの方々にご参加いただき、今後高齢化が進んでいくなかでこれからの地域社会の在り方をお教えいただきました。特に、「地域の理解・支援・つながり」を増やすことにより、認知症の発症や状態悪化を遅らせることが可能になる、認知症が進んでいる中でも、本人がよりよい状態になれる、家族・地域の人々も楽になれる等のお話は大変参考になりました。今後は、近江ちいろば会として、介護事業の充実だけでなく、地域の方々と共に、「地域の理解・支援・つながり」が強まるように地域づくりに参画していかなければならないことをお教えいただきました。

近江ちいろば会は、認知症ケアと在宅支援をコアの事業として捉え、認知症であっても、また身体的に不自由な状態になっても地域社会でお過ごしいただけるように介護事業の質・量の充実は勿論のこと、安心して住まえる地域になるように多様な働きを行ってまいりたいと思っております。

近江ちいろば会が向かうこれからの10年には、社会福祉法人改革、介護保険収入のマイナス改定、人材確保・育成などさまざまな課題がありますが、法人職員、関係者が一丸となって難局を切り開いていきたいと思っております。

これまでさまざまな形でご支援くださった皆様、これからの10年もよろしくお願い申し上げます。

祝 辞

創立20周年を祝して



湖南市長 谷 畑 英 吾 氏

この度、社会福祉法人近江ちいろば会様が創立20周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。貴会におかれましては、平成7年のケアハウスピスガこうせいの誕生を初め、様々な事業に着手いただき、多様なサービスに取り組んでおられます。

地域の皆様に信頼され長く愛されてきたのも「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。」という基本理念を念頭に、地域において一步ずつ着実に歩みを進めてこられた賜物であると、貴会をはじめ、施設の運営に関わられたすべての皆様に改めて心から敬意を表する次第です。

これからも、近江ちいろば会様の益々のご発展と関係者の皆様のご繁栄とご健勝ご多幸を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

日本キリスト教同盟
社会福祉法人十字の園

理事長 平 井 章 氏



ケアハウスを基盤に在宅サービス事業を展開している近江ちいろば会への念願の訪問が2015年10月に実現しました。キリスト教軽費・ケアハウス交流会がここを会場に開催され、森口施設長より20年間の働きをテーマに講演していただきました。

入居者が安心して自分らしく生活できるケアハウスを実践しているピスガこうせいは素晴らしいです。施設と同じ敷地に訪問介護・通所介護、訪問看護のサービスを備え、小規模多機能施設やグループホームもありました。これからの社会福祉法人のあり方が問われていますが、「魅力発信経営報告書」の中には、キリスト教を基盤とした理念があり、自己分析が明確に伝えられ、将来へのビジョンを読み取ることができます。サービスの質の向上、職員研修による人的育成など多くを学ぶことができました。20数年前にお会いした後宮俊夫先生たちの夢が、花開いた光景を見させていただきました。未来にエールを送ります。

創立20周年を迎え

創業の精神とこれからの歩み

館長 森 口 茂



社会福祉法人近江ちいろば会は、神様のお恵みの下に1995年9月に創られ生成発展し、現在に至っていることにたいして多くの皆様の努力の賜物と感謝でございます。

現在では高齢者介護、高齢者住宅は制度が確立し当たり前のことではありますが、20年前は、2000年に介護保険制度が始まる5年前のことであり、まだまだ未知のものでありました。社会福祉法人 近江ちいろば会が創設されたルーツを思い起こし、改めて創業の精神に立ち返ってみたいと思います。

始まりは京都の世光教会の牧師でありました後宮俊夫氏が（当時70歳）甲西町菩提寺にケアハウスを造る計画のため、1993年3月に教会総会において牧師を辞任する旨を表明し施設整備計画が進んでいきました。

滋賀県・甲西町と粘り強く協議を重ね社会福祉法人の設立、ケアハウス、デイサービスの設立の許可を頂くのですが、土地の保安林解除の許可がなかなか下りなくて難渋いたします。しかし当時景気が下降気味で、その景気浮揚策の一環で補正予算が組まれ許可が下りたのは、大変幸運でした。

また、ケアハウスの工事を進める段になり、砂・砂利を運搬する道路の確保が必要になりました。おりしも北小学校の校舎建設のため、河川敷に仮設運搬道路がつけられ、それを活用することができました。大型トラックが何台も住宅地を通ることにより、住民に迷惑をかけることがなく大変幸運でした。まさに神様の恵みと言う他ありません。

ケアハウスの名称については、入居者同士が助け合うことにより最後まで住まおうという祈りを込めて「ピスガこうせい」と命名されました。モーセが約束の地をのぞみて、天に迎えら

れたピスガ山にちなんでの名前です。

また介護の考え方として、入浴の場合にも、効率的には職員がテキパキとお風呂に入れて差し上げ、着替えるのを手伝え、スムーズに事は運ぶのですが、自分でできることは自分でやっていただき、自立を促し、楽しく入浴していただけるように心がける。自分でできる事はやっていただくことにより、残存能力が蓄えられていく。残された人生を、価値あるものとして、有意義に過ごせるのにお役に立てる施設でありたいと、当初より願われていました。

「人にしてもらいたいと思うことは人にもしなさい」という基本理念は、誰でも自分でできる事は自分でしたい、人から尊敬されたいという尊厳ある生き方を支える私たちすべての職員の根本的な考え方として、脈々として受け継がれています。

組織を運営するために理事会が構成され、理事長に草津教会の奈良譽夫氏にお願いし、現在まで20年間大役を担われています。奈良理事長のバックアップがなければ20年間はこのような順調に発展しなかったでしょう。ありがとうございます。

これから先10年、私たちは、2025年 団塊の世代が75歳を迎える超高齢化時代を迎えるのですが、「残された人生を、価値あるものとして、有意義に過ごせるのにお役に立てる施設でありたい」と願い創設された法人の理念を継続発展していきたいと思っております。

そのことが、利用者満足、地域貢献、法人の発展、職員の働きがいに繋がっていくと信じます。創業の精神を忘れずこれから先の10年、創業30周年を目指して歩んでまいりたいと願います。皆様ご協力よろしくお願い申し上げます。

創立20年にあたって

理事(元館長) 後 宮 俊 夫



1995年（平成7年）9月よりケアハウス「ピスガこうせい」を核とする老人福祉事業を開始してより早や20年になります。今改めてその準備の段階から今日に至るまで、地元、行政をはじめ本当に多くの方々のご指導ご支援をいただきまして今日あることを、厚く感謝申し上げます。

思えば、京都市伏見区でキリスト教会の牧師をしていましたとき、教会の老婦人たちの生活をどのように守って行くかを考えたことが発端でありました。当時、老人福祉施策は「特別養護老人ホーム」建設とそこへの措置が主流でした。高齢化社会が問題になりはじめ、施設ではなく在宅での福祉が考え始められていました。教会に出席している経済的に中流の人たちにふさわしい居場所はありませんでした。そうしているうちに、「高齢者保険福祉推進十ヵ年計画」で軽費老人ホームの中に新しく「ケアハウス」が設けられ、この施設なら建設の可能性があるので用地の物色を始めました。京都市では土地の準備は無理であった時、岩谷産業株式会社より現在地譲渡の提案を受けて、ここに建設することに決めました。滋賀県であるので、草津教会の奈良（宮田）誉夫牧師に理事長を、また教会の応援を得るため県内の教会の牧師役員に理事をお願いしました。法的に定められた施設であるので、地域の老人のための事業も計画しました。

そして、1994年（平成6年）7月に社会福祉法人近江ちいろば会の設立認可を受け、8月着工、翌年8月竣工引き渡しを受けて9月より事業を開始しました。

事業を始めて、都市とは違ったいろいろな地域の老人の問題が見えて参ります。また事業そのものも規定されたままではどうにもならない問題にも出会います。まず、ケアハウスは自立して過ごせるが生活に不安のある人が入所する施設ですが、高齢の方々の集団生活は予想以上に難しいということ。元気で入所されていても加齢と共に体力は減退するが、皆が一斉にそうなるわけではないから互いに助けあえばやって行けるだろうと思っていたのに、これもまた難しい。それなら特別養護老人ホームとなるのですが満床で移れません。職員たちの創意工夫と努力によってしのいできました。良くやってくれたと思います。

2000年度（平成2年度）から介護保険制度に移行しました。これで良くなるだろうと思っていましたが、全ての面で個人の権利意識のみが強くなって、相互扶助の精神は薄くなり、経済情勢の停滞は福祉の保障を困難にしています。このなかで、「認知症」の方の問題が大きくなり、これに対しても経験を活かして対応して参りました。

高齢社会が進行する中で、高齢者の生活を、特にこの地域の住民の生活をどう守って行くか苦慮しています。20年を支えご指導下さった皆様に、今後ともご指導ご支援をいただきまして、全国にこのようなあり方があると発信出来るよう今後とも務めてまいります、宜しく願いいたします。

近江ちいろば会20年の歴史

年	事業報告	トピックス
1992	岩谷産業(株)より菩提寺の土地の購入を打診される	
	世光教会として老人福祉施設の調整を行う	
	老人福祉の先輩に相談に行った時6月に創設された新型 軽費老人ホーム・ケアハウス建設を勧められる	
	建設基金の募金を開始する	
	3月末(社福)世光福祉会として土地購入	
1993	(社福)近江ちいろば会設立の折衝	
	5月17日 第一回近江ちいろば会の準備総会開催	
	11月 世光福祉会名義の土地を保安林解除の申請をする	
1994	1月 県より電話あり翌18日準備委員会により対応を協議	
	西村建設と工事契約	
	6月29日付け 社会福祉法人設立認可	
	9月 土地造成工事開始	
	10月 起工式	
1995	8月より職員を採用して研修及び事業開始の準備をする	ピスガこうせい竣工式9月25日 滋賀県知事 稲葉 稔氏 甲西町長 植西 佐吉氏 建築 西村・岩谷建設 工事共同企業体 設計 おちあい建築設計事 務所・(株)丸山建設事 務所共同企業体
	ケアハウスピスガこうせい 事業開始 '95, 9月1日 理事長 宮田 馨夫氏 館長 後宮 俊夫氏 施設長 坂田 幸作氏	
	デイサービスセンターB型、E型 訪問入浴 在宅介護支援センター 甲西町の委託事業として10月1日事業開始	
1996		

近江ちいろば会20年の歴史

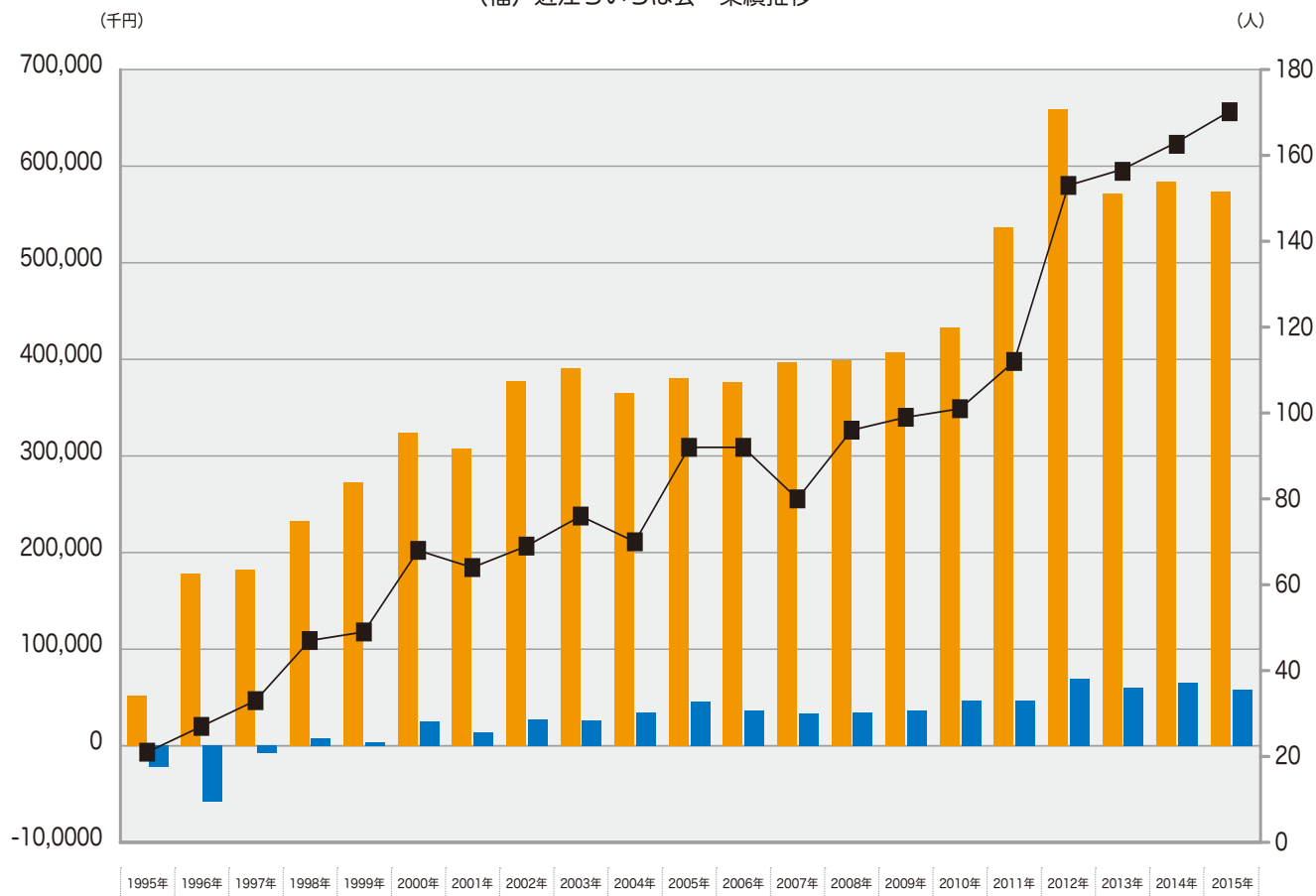
年	事業報告	トピックス
1997	8月よりホームヘルパー事業の委託を受ける。 対象はケアハウス入居者	
1998	デイサービス方式の委託費が事業方式に移る	
1999	2000年の介護福祉計画として高齢者生活福祉センター の建設を申請	
	何度も交渉するも12月には認められず	
	2000年よりホームヘルパー事業を地域一般に拡大 (介護保険への移行準備)	
2000	介護保険制度導入	
	デイサービスホームヘルパーが介護保険へ	
	居宅介護支援事業 配食サービス開始	
	2001年度施設整備計画として高齢者生活福祉センター とグループホームを申請	
	12月 グループホーム計画のみ承認される	
2001	10月1日 グループホーム建設を着工	グループホーム建設には 監修 外山 義氏 設計 永野建築設計事務所 建築 大林組
2002	4月1日 グループホーム事業開始	グループホーム竣工式 (3月24日) 滋賀県知事 國松 善次氏 甲西町長 関 春央氏 京都大学 大学院教授 外山 義氏
2003		3月末 後宮館長、坂田施設長退任

近江ちいろば会20年の歴史

年	事業報告	トピックス
2004	森口館長就任	組織の改革 事業所自主責任経営を採用
2005	9月3日 10周年記念感謝の集い 〈記念講演〉 滋賀県知事 國松 善次氏 講演「これからの高齢者福祉を考える」 〈フルートコンサート〉 湖笛の会の皆様	10周年記念感謝の集い 日付 9月3日 ・滋賀県知事 國松 善次氏 ・湖南市長 谷畑 英吾氏 ・民生委員・児童委員 協議会会長 10周年記念感謝の集い
2007	日清医療食品委託開始	
	中央デイサービスセンター しんあい 開始	
2011	移送サービス開始	
	小規模多機能型事業所 ぼだいじみんなの家開始	
2012	みなくちみんなの家（グループホーム、デイサービス、ケアプランセンター）、訪問看護事業開始、障害者自立支援法による居宅介護事業開始	
2014	3月19日「穏やかな死」を迎える研修会 会場：甲西文化ホール 社会福祉法人 同和園 中村仁一 先生	
	CH厨房直営開始	
	配食サービス廃止、つどいcafé 開店	
2015	9月4日 20周年祝賀会 会場：クサツエストピアホテル	
	11月7日 地域講演会 会場：甲西文化ホール 認知症介護研究研修東京センター 永田久美子先生	

業績推移2015

(福) 近江ちいろば会 業績推移

創業時の
理事・監事

理事長	奈良 譽夫
理 事	後宮 俊夫
//	大橋 弘
//	佐藤 與紀
//	稲垣 壬午
//	鈴木 儀平
//	榎本 和子
//	坂田 幸作
監 事	関 雅人
//	下岡 一夫



歴代の理事長・施設長

	平成7年	平成9年	平成12年	平成15年	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年
理事長	奈良 譽夫							
館 長	後宮 俊夫				森口茂 平成16年～			
施設長	坂田 幸作							

現在の理事・監事

平成27年12月現在

理事 名簿	評議員名簿		監事 名簿
奈良 譽夫	奈良 譽夫	原田 潔	明智 榮一
森口 茂	森口 茂	平野 正	武本 勉
関 雅人	関 雅人	望月 修治	
藤原 忠昭	藤原 忠昭	大石孝太郎	
行本 善則	行本 善則	今橋真寿美	
中田 匡美	中田 匡美	山本 勝正	
森川 和義	田中 義久	森川 和義	
	松山 克子		



写真で見る成長の足跡1



竣工当時の写真 (1994年)



竣工式の写真



写真で見る成長の足跡2

グループホームぼだいの竣工式、開所式や建物 (2002年)



2000年(平成12年)

介護保険制度 開始



2002年(平成14年)

湖南市初の

認知症対応型
共同生活介護事業

- 施工業者：株式会社 大林組
- 総建築費：2億円
- 監修：外山 義
- 設計：永野建築設計

五感に働きかける空間づくり
グループホームぼだいち 開設



写真で見る成長の足跡3

中央デイサービスセンターしんあい、開所式 (2007年)



小規模多機能型居宅介護事業所 ぼだいじみんなの家開所式(2011年)



写真で見る成長の足跡4

みなくちみんなの家開所式 (2012年)



写真で見る成長の足跡5

開設～10周年まで (1995年～2005年)



写真で見る成長の足跡6

10周年パーティと記念講演の様子 (2005年)

社会福祉法人 近江ちいろば会
創立10周年記念感謝の集い
**福祉講演会とフルートオーケストラ
コンサート**

日時 **2005年9月3日(土)** 会場 **湖南省 甲西文化ホール**
 受付：午前 9時30分より

講演
 『これからの高齢者福祉を考える』
 講師／滋賀県知事 國松 善次氏

**“湖笛の会”
フルートオーケストラ コンサート**
 指揮／松山 寛子氏

滋賀県知事 國松 善次氏
 湖南省市長 谷畑 英吾氏
 民生委員・児童委員協議会会長 藤原 忠昭氏
 理事長 奈良 肇夫



毎年の創立記念行事の様子



写真で見る成長の足跡7

毎年の創立記念行事の様子



記念イベントの写真



後宮俊夫・松代氏 牧会50年式典



職員研修



サークル活動



ヨガサークル



マラソンサークル



福祉施設バレーボール交流会



生け花サークル (末生流)

20周年イベント

20周年 パーティの様子 (2015年)





20周年イベント

社会福祉法人 近江ちいろば会 創立20周年記念

地域講演会

創立20周年を記念して、認知症介護の研究および実践等で著名な永田久美子先生をお招きし、講演会を実施いたしました。

2015年11月7日(土) 午後2時～4時
会 場 湖南省甲西文化ホール

【特別講演】

「認知症とともに、よりよく暮らす
～これからの生き方・支え方～」



認知症介護研究・研修東京センター 研究部部長
永田久美子 先生

永田先生からは、地域の理解があれば、認知症であっても最後まで地域で過ごせることをわかりやすくお話をいただきました。

また、フロアイベントとして、介護や看護の相談コーナー、コーヒーサービス、事業所紹介コーナーなど、職員による様々な企画が実施され、楽しい講演会となりました。



介護・看護・終活 相談コーナー



受付、コーヒーサービスの様子



事業所紹介コーナー

未来へ向けた新たな取り組み ～地域の中へ入っていく～

菩提寺東へ移転

ぼだいじデイサービスセンターいこい
ぼだいじホームヘルプステーション
地域の我が家 (2015年)

ぼだいじのケアハウス「ピスガこうせい」の併設施設から、新たに地域で認知症ケアを実践するため移転しました。

地域交流スペース「地域の我が家」も併設しており、介護予防教室など、様々な交流の場となっております。



2016年4月1日

「デイケアの家おしどり・ゆめとまの家おしどり」が近江ちいろば会に加わりました



滋賀県湖南市サイドタウン3丁目16番72号
デイケアの家 おしどり

TEL 0748-74-0005 FAX 0748-74-0403



湖南市サイドタウン3丁目8-33
ゆめとまの家おしどり
TEL 0748-74-8880



笑顔が見える、
声が聞こえる
デイケアの家



事業所 基本理念 ひとり、ひとりを大切に

- 1、人が人として、最後まで希望を持って安心して生きる事を実現します。
- 2、人との繋がりを大切にしたアットホームなデイサービスを目指しています。
- 3、若いものから高齢者まで、人生に夢を持ち、生きている喜びを感じられる地域社会づくりに貢献します。

創立20周年記念 座談会

「20年前の新人、今の新人との対談」

～20年を振り返って。新入職員として事業を支えて下さった方たちに聞く～

日時 平成27年12月15日午後1時～3時

会場 ピスガこうせい2階フロア

大柳 本日の座談会の司会を務めさせていただきます法人本部職員の大柳です。よろしくお願い申し上げます。このたびは、法人創立20周年を記念致しまして、創業期の事業立ち上げから、定年までご尽力いただきました方々を代表して3名の方と、今年度と昨年度に、新入職員として入職いただきました職員を代表して、2名の方に、また、創立者である後宮俊夫様に、ご参加いただきました。オブザーバーとして、森口館長、竹内所長にも、ご参加いただいています。懇談的に進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

森口館長 お陰様で、この9月に20周年を迎えることが出来ました。これも地域の皆様や職員の皆様のご支援、ご努力の賜物と考えております。今日は、これまでの思い出話や、新しい職員へ引き継いでいただきたい話、また新人の方から質問して頂いて力にさせていただくとか、そういったお話しになれば、と思います。限られた時間ですけれど、和やかに進めさせていただきたいと思います。



後宮 近江ちいろば会は、私が70歳になってから具体的に動き始め、世光教会等の様々なご縁、支援をいただきながら、滋賀県、甲西町、政府などと、本当に苦労しながら交渉を重ねてきました。保安林を解除して頂く際には、厚生省、林野庁の間に挟まって計画を進めることができなくなり、針のムシロに座らされたようで、ひたすら祈る毎日でした。しかし、政府の景気浮揚策が出されたことをきっかけに、煩雑を極めました。申請から1年半で保安林が解除されることとなりました。工事が始まる時には、偶然にも菩提寺北小学校の建築用道路を利用することができることになり、近隣住宅地を通行せずに建設を進めることができ、本当に幸運でした。力もない地位もない一老牧師がこのようなケアハウスを実現することができたのは、神がこのような老人福祉施設を必要としておられることの証と信じています。

当初の敷地は、いまケアハウスが立っている石垣の上だけでありました。当初は、ケアハウスとデイサービスのB型（一般型）とE型

(痴呆症型)からスタートしました。ケアハウスは、申請時は、まだ滋賀県に実績がなく、事業開始も2番目の開始でした。デイサービスE型は、滋賀県でも3番目の開始です。町や県の誘致策によって用意された手順のなかで出来た施設ではなく、まだケアハウスや痴呆性老人のデイサービスの必要性が社会的に十分認知されていない時に、一步先んじて、行政に、その意義から説き、募金で資金を集め、土地を確保し、町や県の承認を得て出来た施設です。いま、新しいパンフレットを見ていると、航空写真が載っていますが、グループホーム、みんなの家、駐車場など、大きく成長していることがよくわかります。それは、ここにおられる職員のひとり一人の方々が、手探りの状態から事業を立ち上げ、人格の尊重と自立を基本理念にすばらしいサービスを作り上げてきていただいているからであります。

久保 20年前のことがまったくわからないので、その時の様子とかご苦労されたことなどお伺いしたいと思います。

北橋 私は、この職場に来る前は、保育士をしていました。介護というのは初めての仕事だったんですね。それで、図書館に行って介護の本は、ほとんど読んでしまいました。またレイカディアにもよく行っていましたので、職員さんにも顔を覚えていただきました。何しろ、素人だったものですから、中原さんからよく怒られました。非常勤の方がよくやっているのだから正職員はもっと頑張らないと、と叱らないといけないこともあるのですが、それには自分が知っていないといけないということでやってきました。私は、ヘルパーステーションをやっていましたが、その頃、ヘルパーという仕事は、デイサービスや施設の職員よりも、一段低く見られていました。社会もそうでしたし、職員の中でも、家政婦の様に思われていた面があると思います。で

すから、職員は、勉強をして資格を取ろうと言いました。ヘルパーステーションの職員で介護福祉士の資格を持っている者が多かったと思いますし、登録ヘルパーも資格を取る者もいました。

森口館長 それは、いまのヘルパーステーションに受け継がれていますね。

松吉 ケアハウスは、職員がよく変わるので、なかなか落ち着かず、いつも仕事に追われているようでした。その頃は、職員が交代で宿直していました。それでも足りないので、デイサービスの男性職員にも宿直を頼んでいました。

大野 私は、非常勤職員から採用していただきました。最初は、新しい施設ということですのですべてが手探りでした。「いこい」という空間に閉じ込めてはいけないと思い、2階の和室も使わせていただいたりしましたが、和室だと、テレビを見たり手作業だけで動かせないということが分かりました。これでは駄目だと思い、地域に「いこいハウス」を借りてもらいました。そうすると自ら動かれる方が多くなりました。

久保 認知症の方で、帰りたいと何度も言われる方や、入浴拒否の方に対しては、どのように声掛けしていけばよいのでしょうか。

大野 その方が、どうして帰りたいと思っておられるのか、もしかしたら、お家の誰かのことが気になっているとか、であれば、安心できるように聞いてみましょう、のように対応していけばどうでしょうか。

竹内 以前、中原所長さんに聞いたのですが、しんあい(認知症型デイ)のご利用者さんが、どうしても外出されるので、大野さんが付き添って外出されたことがあるそうです。その時、ご利用者さんは、回転ずしに行きたい

と言われたそうですが、大野さんが回転ずしに行ったことがなくて、戸惑ったことがあったそうです。

大野 そうなんです。私にご利用者様に、食べ方を教えていただいたんですよ。(笑)

入浴拒否の方の場合では、しんあいはデイなので、限られた時間内で入浴して頂くことになります。ですから、朝が駄目なら、昼、昼が駄目なら、帰られる前にでも、声掛けさせて頂きます。実際、車の準備をしている時間に、やっとお風呂に入られる気持ちになって入ることができるのですが、その方が、お風呂に入って気持ちがよかったと言って下さる、と私も安心します。やはり、よくお話を聞かせて頂く事が大切だと思います。

後宮 入浴は、同性と異性の違いもありますね。

大野 そうです。男性の方の介助で、女性がいるとお風呂から上がれない方がおられて、デイの虹さんの男性職員に応援に来てもらったこともあります。お風呂の栓を抜いて寒くなりますから、上がりましょう、なんて言ったこともあります。

北橋 衣服を脱ぐときにもいろんな声掛けをしました。お医者さんや看護師さんに見てもらいましょうと言ったこともあります。いろいろとお芝居をしたり。(笑)

松吉 小川先生が、どうしても入らないといけなと言われてるから・・・というのもありました。お医者さんの言葉だと、よく聞いてくれる方もいますね。

大野 お風呂は、夜に入るものと思っている方がおられて、デイの昼間にはどうしても入れない方がいました。それを理解したら、「夕方になったらお風呂が沸いてるから一番に入ろう」と言って入れるようになった方もおられま

した。本当に、人それぞれに理由があると思います。

久保 これまで入ってくれた方が入ってくれなくなったり、緊急ショートで、深くご利用者様のことを理解出来ていないときに、入浴拒否があつたりすると、困ることがあります。

大柳 先輩の方から、新人の方に、伝えたいことはありますか？

北橋 仕事を楽しんでしていただきたいな、と思います。毎日の仕事ですし、つらいこともいっぱいあると思います。だから、仕事の中で、楽しいな、嬉しいな、と思えることを大事にしていきたいと思いますし、楽しいと思える職場であってほしい、と思います。

大野 しんどいことより、ちょっと嬉しいことや楽しいことが多いと思える仕事を創っていくといいと思います。それと、しんどいときに、それに捉われ、あせって結論を急がないことが大事ですね。

職員同士のコミュニケーションも必要です。一人で抱え込まない、できるだけ職員同士のコミュニケーションを取って共有することが大事です。

竹内 介護保険の中では難しいと思われることでも、ほんの少し手を差し伸べれば、グッとよくなるということも大事だと思います。

大野 そうそう、デイでも、ご自宅での生活がどうなのだろう、と思って、ほんのちょっとしたことを手助けしてあげるとよいことが多いです。そういうことで、仕事の喜びも大きくなります。

大柳 小規模多機能型(ぼだいじ みんなの家)は、新しいサービスですが、そうしたちょっとしたことを柔軟にできるサービスとしてできたものですね。

北橋 地域密着型のサービスは、これから本当に求められています。みんなの家が、あのスペースに建つとは思ってもみませんでした。入ってみると本当によい建物ですね。

大柳 まだお話の途中なんですが、業務の都合で、久保さんが退室されます。久保さん、ひと言お願いします。

久保 今日は、創立当初の経緯や苦労など、貴重なお話をたくさん聞くことが出来て、本当にありがとうございました。お伺いしたお話を聞いてこれからの仕事に生かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

大柳 では、引きつづきお話を続けましょう。

竹内 最初は、いこいさんと虹さんのお風呂は、一緒に使ってたんですか？

大野 そうです。でも、裸のまま出ていこうとされたり、1階と2階の利用者様同士の関係があったりで、最近までのような、いこいと虹で、お風呂の利用時間をわけるようになりました。

北橋 当時は、ヘルパーが髪も切っていたんですよ。美容室に行かれないとかの方がおられて。今は、ヘルパーが髪を切ってはいけないということになっていますが。

北橋 私が、一番、問題だったのは、結核のご利用者さんのところに行くときですね。感染する可能性があるところへ、派遣をすることになった時に、もし、職員が感染したらどうしよう、10年間は潜伏期間があると言われていたので、将来の危険も負わなければいけないとなり、本当に悩みました。それでも、行ってあげるわ、という人だけに行ってもらったんですが、もし、この人たちが感染したら、どうしようというのが、ずーっと私の心に残りました。最近、ようやくその10年が過ぎた

ので、やっと安心することができるようになりました。それが一番心配でした。

竹内 その時の職員さんも、10年間経って感染していなかった、と最近、話しておられて、やっぱりずっと心のなかにあったんやな、と思います。それでも、なんとかしてあげたい、と思って訪問されたんですね。

北橋 看護師さんも行きたくないと言われていたんです。最初は、ある公的な訪問介護サービス事業者さんに依頼されたんですが、そこに断られて、うちに依頼が来たんです。その時は、わからなくて引き受けたんですが、看護師さんからは、「出来るの?」と言われてたりしました。毎日、行ったんですよ。お正月もまったく休まず。

竹内 その訪問に行った職員のなかには、独身の女性がいて、結婚前で、泣きながら行っていたことがあります。

北橋 でも、登録のヘルパーさんの中にも、何人も行ってあげるわ、といって頂ける方がおられて大変助けて頂きました。

大柳 その伝統は、竹内所長にも引き継がれていますね。

竹内 そうですね。ほだいじヘルパーステーションは、長く勤めて頂いている職員が多いと思います。

大柳 10年、20年の勤続表彰者が一番多い事業所ですよ。

竹内 周りが支えていかなあかん、と思ってくれるんですよ。

松吉 チームワークがよかったのね。

大野 私ができなくても、誰か出来る人が出てきてくれる、ということがありますよね。

竹内 私が、ここで学び始めたころ、利用者さんの言葉の意味がわからないで困惑していた時に、先輩職員が、その方のやりたいことを理解して適切に対応されたことを今でも覚えています。ひとり一人の職員の観察力もすごかったと思います。

北橋 この仕事をさせていただいてよかったのは、ご近所や知り合いで介護が必要となったときに、いろいろとアドバイスができることです。また、地域で何かしようというときに、積極的に地域づくりに関わっていけるようになりました。地域にいろんなサービスがあって、できるだけそこに多くの人が関わるようにしています。いこいさんに行ってはる人が来ているサービスもありますよ。

荒木 私は、グループホームにいるのですが、入居者さんの帰りたいという願望に、どう対応すればよいのか、悩んでいます。嘘をついても、その場の関わりで対応することではよいのか、どうなのか。本当のことを言わないでよいのだろうか、とか。皆さんは、どうお考えになりますか？

松吉 それは、よくあることだと思うわ。でも、その後の対応も考えておく必要があるわね。

大野 嘘というより、その人が不安に思っている背景をお聞きしたりして、安心できる声掛けをするということが大事じゃないかと思います。その場しのぎの対応でなく、その人が安心して落ち着くことが出来る声掛け、ということで、嘘ということではないかな。

大野 認知症の方は、ご自分でも、どうしてよいかわからなくなることがあると思うのです。でも、時間が経つと、自己回復してこられる

ということもよくあります。どうしても外に出ようとする方を、無理に止めようとせず、そっと付き添っていくと、「今日は寒いな、着る物があるな」とか、話されて、その時、「じゃ、着る物を取りに帰りましょうか」と声掛けすると、帰ってくれることもあります。夏は、「こんな暑い日に外に出たらあかんな」とか言われたりします。経験的に、認知症の方は、ほんまに自己回復されるな、と思うのです。だから、寄り沿う介護ということもあると思います。しんあい、で、心臓の悪い方が、外出されたときは、これ以上歩いてはいけな、と思うときは、携帯を手にとって、携帯を鳴らして帰る理由にすることもありました。でも、外に出るまでにできることはなかったか、と反省もしています。

後宮 この20年で、ちいろば会は、高齢者介護サービスに加えて、医療サービス（訪問看護ステーション）も提供できるようになりました。認知症介護と、地域で暮らす自立支援という基本方針は変わっていませんが、しんあい、いこいという認知症介護の拠点を地域に作ったり、小規模多機能型居宅介護、水口町にもグループホームなどを作ってきました。これは、森口館長の力によるところが大きいです。新人の荒木さんも、森口館長を信じて付いてきてください。何も心配することはないよ。

松吉、北橋 私たちが、勤め始めたのは、40歳代だったので、10年～20年くらいで定年になったけど、今はどうなの？

大柳 今も、60歳定年ですが、その後の再雇用制度もありますよ。皆様には、もう一度、力を貸してほしいくらいです。

竹内 三上台の事業所で、つどいカフェというがあるので、そちらへもぜひ来てください。

北橋、松吉 それは知らなかったわ。ピスガの風は、いつももらっていますけど。(笑)

大柳 最後になりますが、荒木さん、ひと言、お話し下さい。

荒木 今日は本当にありがとうございました。最初は、非常に緊張していたのですが、すごく楽しく話を聞かせて頂いて、自分も先輩方のように話が出来ようになりたいな、と思いました。まだまだなんですけれども、もっと勉強していきたいと思います。(全員拍手)



後列左より：大柳さん 荒木さん 大野さん 竹内さん
前列左より：松吉さん 後宮さん 北橋さん

— まとめ —

この度の座談会では、久しぶりに在職中と変わらず素敵な大先輩にお会いでき、貴重なお話を聞かせて頂き、懐かしい話を楽しく振り返られたことで、とても有意義な時間となりました。

同時に、先輩方が築かれたケアや伝統を引継いでいく責任の重さと、私達がまだまだ至らない点を認識しましたが、今までご指導頂いた事や、先輩の背中を思い出しながら、少しでも追いつけるよう日々の業務に取り組んでいこうと思いました。どうぞ、これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

座談会参加者プロフィール

【創設者】後宮俊夫さん

社会福祉法人近江ちいろば会の創立者。初代館長。京都の世光教会の牧師でありました後宮俊夫氏が、当時70歳から開始されたのが、当法人の始まりです。

【20年前の新人さん】北橋多鶴さん

初代ヘルパーステーション所長。太陽のような笑顔はご利用者さまだけでなく、職員にとってもアイドルのようでした。ご利用者様のために、ヘルパー教育にご尽力されたお蔭で、“もったいない”の精神は今でも引き継がれています。

【今の新人さん】久保あづみさん

2014年4月入社。小規模多機能型居宅介護事業所『ぼだいじみんなの家』に勤務しています。新人さんとは思えないほどのしっかり者で、ご利用者さんへの丁寧な介護も好評です。

【現職員】竹内久子さん

1999年4月入社。現、ヘルパーステーション所長。北橋さんの教えを忠実に継承されており、能力の高いヘルパー職員を束ね率いる、とても繊細で懐の深い所長です。

【20年前の新人さん】松吉妙子さん

看護師であり、ケアハウス初代の生活相談員。行事では抜群の発想と美的センスで入居者様をいつも楽しませて下さいました。根っからの福祉人である松吉さんから沢山のケアを学ばせて頂きました。

【20年前の新人さん】大野佳子さん

デイサービス認知症のスペシャリスト、ケアのことはもちろん大野さんのお側にいると、スーパー主婦の見習いが出来ました。入職後20年を経て、平成27年に定年を迎えられました。頼れる、ちいろば会の母、大野さんです。

【今の新人さん】荒木咲綾さん

2015年4月入社。グループホーム『みなくちみんなの家』に勤務しています。初めての職場で慣れないことも多い中、多様な才能を発揮してくれています。

【現職員】大柳恵子さん

1999年4月入社。現、法人本部 主任。給与計算から介護保険、現在は会計を担当。意外と昔のことをよく覚えている事務員です。

法人を育ててくださった人たち

20周年、おめでとうございます

評議員 松山 克子



年を重ねる毎に将来の生活設計に不安を感じる方は多いのではないのでしょうか。月2回ピスガの食堂で「歌声サロン」を開催しておりますが、緑に囲まれた素晴らしい環境、いつも温かく迎えて下さる職員・スタッフ、お掃除の行き届いた施設、入居者、利用者様の笑顔。ここに不安を一掃する答えがある、と私は実感しています。

「人にしてもらいたいと思うことを 人にもしなさい」という基本理念が随所にちりばめられているからでしょう。

評議員のひとりとして参加させて頂く各事業所の「業務改善活動」のプレゼンテーションにはいつも感心、感動しています。些細と思えることから大事に至るまで、高齢者に配慮したアイデアや心遣いを形にしようと、職員の方々の懸命の努力が見て取れるからです。

後宮先生ご夫妻、奈良理事長、森口館長ご夫妻、のお人柄、お心がここにも生かされています。「地域」の為、「みんな」の為、益々のご発展をお祈り申し上げます。

創立20周年に向けて

評議員 大石孝太郎



介護サービスにおける業務改善活動の導入を契機に、近江ちいろば会様にご縁をいただくようになりました。介護サービスのような人的な介護・福祉サービスは、科学的管理手法は馴染まないと考える経営者がほとんどの中、森口館長のリーダーシップのもと、毎月1回の全体ミーティングを行い、年に1回の発表会まで、各職場単位で業務を改善する取り組みが始まりました。平成27年度は、第8回目となる業務改善活動発表会を開催しました。年々、その活動は、法人内に留まらず、地域連携などテーマの広がり、介護の質向上の取り組み、専門職としての知識や

技能の向上、環境改善など、高度化と高品質化が進んでいます。何より職員の皆様が、業務多忙な中、自主的に活動に取り組みられ、ご利用者第一のケアを実現していく姿に、人の成長と事業の成長を感じずにはられません。

近江ちいろば会様が、これからも高齢者と地域の介護・福祉において、高品質のサービスで、全国から良いモデルとされる法人へ成長していったほしいと願っています。

ボランティアさんにご利用者に頂いた お祝いのメッセージ

私は近江ちいろば会さんでのボランティア活動に3回参加させていただきました。

初めて参加した時、アットホームな雰囲気に緊張がほぐれ、人生の先輩からお話を伺うことで自分自身も楽しみつつ学ぶことができ、またボランティアに行きたいと思いました。

事前事後の相談も気軽に引き受けていただき安心でした。

ありがとうございました。

龍谷大学 社会学部 臨床福祉学科
口分田 知佳 様

社協の高齢者支援ボランティアの講習を受けてデイサービスセンター虹に来て5年目に入ります。いつも楽しみに来て、いつまでも来たいと思っています。虹は雰囲気が良く、親を預けるなら此处が1番良いと思っています。

ボランティア
伊藤 まゆみ 様

開館20周年 おめでとうございます。私の5年前は、だまって座るだけでしたが、ヘルパーさんが来られてから、話をして大笑いできました。私の子供も同じように少しずつ話できました。本当にありがとうございました。

ご利用者 宮下八重子 様

初めての高齢者福祉施設でのボランティア活動が近江ちいろば会さんでのボランティアでした。

当時は1回生で社会福祉の勉強もまだまだだったので、不安もありました。

けれど、利用者の皆さんと、たこ焼きをつくったり、護身術を教わったり、歌を歌ったりすることを通じて、高齢者のことや福祉施設について体験的に学ぶことが出来ました。ありがとうございました。

龍谷大学 社会学部 臨床福祉学科
小林 陽太 様

本年、社会福祉法人近江ちいろば会開設20周年、関係各位の努力に対し心からお祝いと感謝を申し上げます。当時、国の方では高齢者対策とし介護法を制定されました。近江ちいろば会では、早速、高齢者向きの介護施設の開設に取り組みされました。私は当時甲西町長を務めておりましたので、菩提寺広野でお住まいの鈴木儀平さんより保安林解除の問題等相談を受けた事を思い出しております。私も昨年、米寿を終えまして、現在要介護1で居宅サービスで週一回入浴のお手伝いをして戴いております。大変喜んでおります。今後、近江ちいろば会の発展と関係各位のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

ご利用者 植西 佐吉 様

私共は老々介護の日々を送っている者です。白内障の手術を機にデイサービスでお風呂にも入れてもらい、石けんもつけずに入浴していた何年かを思いますと、今は幸せです。親しい方とおしゃべりをしたり、色々なゲームを催して頂いたり、楽しませてもらっています。又「お早うございます。ヘルパーステーション」と来て下さる方々も黙々と少ない時間取り組んでやって下さるので頭の下がる思いです。老人二人の生活が皆様の温かいお心の下にある事を感謝し、今後共宜敷くおねがい致します。

ご利用者 匿名

ご利用者、ご家族様の声 ～創立20周年によせて～ ケアハウスピスガこうせいより

入居して12年、人の心の身勝手に苦しんだ時もありましたが、職員の行き届いた心のケア、何でも話し合えるお友達に恵まれて、本を読んだり好きな舞を楽しんできました。尊敬する舞の先生に出会えた事が一番の幸せでした。

ご利用者 益 鐘子

ピスガに入居させて頂いて、今が最高の幸せです。みなさんや職員さんに色々させて頂いてありがたいです。この年まで生きていて良かったなと思います。

ご利用者 中澤 シズ江

小高い丘にくっきりと白く優雅な姿。

それはピスガこうせい、ケアハウス。

ここに20周年迎えられたことはこれ偏に近江ちいろうば会、又地域の方のご尽力の賜、又ご指導のお陰と深く感謝すると共に、厚く御礼申し上げます。

ここでご紹介いたします館長さんは中々の人物家でいらっしゃるユーモアなお方で、私達入居者のお手本になる人。

所長はこれ又よく動く、陣頭指揮精神たるやご立派。

主任（藤川さん）はおとなしい中にはっきりとした芯のある人。

女性（山内さん 主任）又中野さん。いいですね。若い娘さん。明るくいし何事も優しい。

井之口君。大いに頑張ってます。残り人生を有意義に。

私の考え 夢をもつ事 いつもほがらかに ありがとう すみません 感謝の気持ち

ご利用者 増田 喜代恵

開館20周年 お目出度うございます。高齢化、核家族の進むなか、独居老人として友人も減り、家にとじこもりがちになり淋しく暮らしているとき、ケアマネジャー様のご紹介に依り施設のお世話になるようになり早や5年となります。施設の皆様のお蔭をもちまして徐々に友人も出来、体力の老化は致し方ないものの精神的安らぎをえて日々平穩に過ごさせて頂いております。これも施設の皆様方のお蔭と感謝致しております。今後共、何卒よろしくお願い致します。

ご利用者 杉本 八尾

静かな環境の中、白城の五層の美しいホームに規則正しい生活・栄養価のある食事を戴き、生活出来る事は、有難いと思っております。館長様、職員様も優しく、又良い友人もできました。寿命のある限り、お世話になると思いながら安心して暮らせる日々を楽しんでおります。

ご利用者 三宅光子

20周年おめでとうございます。人生の終活を求め入居させて頂いて10年になります。一人ぼっちの生活から朝夕、大勢の人に囲まれ温かい気持ちのふれ合いの日に生甲斐を感じていました。カーテンの隙間から洩れる朝日に目をさまし沈む夕陽に一日の無事を喜びベッドに入る生活です。事務所の方々の温かい気配りに感謝しつつ余生を送っています。40年50年と続く事を心より念じて居ります。

ご利用者 永井 ちよゑ

事業所紹介 ～創立20周年に寄せて～

本部



事務長 森川 和義

近江ちいろうば会が20年を迎えた年に入職させて頂き、その感慨を共有できたことを嬉しく思います。そして同時にこれまで近江ちいろうば会を育ててこられた創設者である後宮先生をはじめ先人の皆様のご努力とご尽力に感謝いたします。これからさらに30年、50年…と地域社会になくてはならない法人として存続発展していくよう、基本理念である「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」を肝に銘じながら少しでも寄与してまいりたいと強く思います。



課長 奥田 教皓

たくさんの方々のおかげさまで、近江ちいろうば会は20周年を迎えることができました。誠に有難うございます。法人理念の「人にしてもらいたいことを人にもしなさい」の下に、職員が邁進できるようにサポートしていきます。



主任 大柳 恵子

ケアプランセンター みなくちみんなの家



所長 長谷川美智子

みなくちみんなの家は、平成24年4月、甲賀の地に、新しく立ち上げた事業所です。20周年の節目に当たり、職員みんなで協力し、この地域に根付いていくよう、心あたたかに、チャレンジしていきたいと思っています。

デイサービスセンター みなくちみんなの家



所長 遠藤 隆士

今後も、ちいろうば会の沢山の事業所、職員が連携して、「人にしてもらいたいと思う事を人にもしなさい」の理念を実践し、滋賀県の福祉と言えば、近江ちいろうば会と言われるような法人となりますよう、尽力してまいります。



主任 高永 早苗

グループホーム みなくちみんなの家



所長 土岐 聖仁

創立20周年を迎える中、みなくち みんなの家は、開設して4年となりました。

年をとっても、身体が動きにくくなっても、認知症になっても近江ちいろうば会が近くにあるから安心だと言ってもらえる様、取り組んで行きます。



主任 清水美佐子



主任 福永 安奈

ケアハウス ピスガこうせい



所長 浅野 智幸

近江ちいろうば会創立20周年を心よりお祝い申し上げます。

私は入職して10年、これからも感謝・謙虚・初心の気持ちを忘れず、ケアハウス入居者様が元気に笑顔が溢れるよう、今後も頑張っていきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



主任 藤川 達成



主任 山内 千鶴

厨房



所長 奥田美津江

20年というおめでたい節目にあたり、厨房はやっと2年目を迎えました。

健康で安心して、お食事を心ゆくまで楽しんでいただけるように、これからも私たちは真心こめて、精進したいと思います。



主任 大西ひとみ

ぼだいじ デイサービスいこい



所長 小松 妙

高齢になっても安心して最期まで暮らせる所が必要だとの熱い思いで後宮牧師が創立された近江ちいろば会。

私が入職した当時、介護は措置の時代でした。それから介護保険制度へと移り変わる中で様々なことを経験、勉強させていただきました。共に変化を経験し、成長してきた近江ちいろば会の20周年。これまでの感謝とともにお祝い申し上げます。



主任 廣島由里子

グループホームぼだいじ



所長 堀内 京子

近江ちいろば会創立20周年を心よりお喜び申し上げます。

記念するこの時を、職員として迎える事が出来た事に喜びを感じています。

愛情ある適切な入居者様への支援と絆を大切に、地域に融合した活動がさらに充実するよう、仲間と共に尽力をつくしていきたいと思っております。



主任 浅井 友紀



主任 中澤 紘子

ぼだいじ 訪問看護ステーション



所長 池内ちひろ

ぼだいじ訪問看護ステーションは今年で5年目を迎えます。

まだまだ未熟ではございますが、在宅医療を担う一員として、皆様が住み慣れた地域で最期まで、安心して過ごしていただけるよう、精一杯頑張っていきたいと思っております。



主任 辻井 廣香

ぼだいじ 居宅介護支援センター



所長 今橋真寿美

3年ごとに変わる介護保険制度のもと、「支援業務が目指すものは何か」と問いかけながら、「人の心・営み」を大切に、地域包括ケアを推進していくことが事業所としてのこれからの大切な役目だと考えます。



主任 渡邊あゆみ

小規模多機能 ぼだいじ みんなの家



所長 上西 忍

自分の生まれ育ったこの町が「誰もが安心して暮らせる町」になるように、いろんな方に教えてもらいながら、いろんな方に助けてもらいながら、自分にできることを全力でやっていきます。

皆さん、よろしくお願い致します。



主任 川田 久志



主任 萩原 沙織

ぼだいじ ホームヘルパーステーション



所長 竹内 久子

創立20周年おめでとうございます。

早いもので私も17年となり、気が付けば古株になってしまいました。清島さんとの出会いで、ヘルパーの仕事に導かれ、北橋前所長との出会いで、いろんな事を教わり、森口館長との出会いで、背中を押して頂き、所長として私の道を広げて頂きました。

そして、いい仲間との出会いが私を支えてくれています。皆様に感謝をし、これからも精進していきたいです。



主任 羽賀美弥子

ぼだいじ デイサービス にじ



所長 保井 達範

創立20周年おめでとうございます。私は約10年間近江ちいろば会で働かせていただきましたが、その間、介護保険制度など色々変わってきました。しかし、ご利用者様の事を考えた、サービスはブレないようにしていきたいと思います。



主任 芦田 静香

高齢者支援センター ぼだいじ



主任 黒柳ひとみ

ちいろば会創設時から在宅介護支援センター事業が始まり、介護保険実施の過程で高齢者支援センターへとシフト変換されましたが、今後も地域に根ざした事業所を目指して地域包括支援センターの委託先としての役割を進めていきたいと願っています。

中央デイサービスセンター しんあい



所長 芦田 泰俊

20年という歩みを続けてこられたことは、感謝とともに皆さまと喜び合いたいことです。皆さま方のお力添えのおかげであり、これまで共に歩んで下さった方々のおかげであります。これからも何卒宜しくお願い致します。



主任 安原 朋未

【講演】第14回 キリスト教軽費老人ホーム・ケアハウス交流会

「魅力発信経営報告書」

社会福祉法人近江ちいろば会 施設長 森口 茂

2015年9月4日に、クサツエストピアホテルにて「近江ちいろば会創立20周年祝賀会」を、多くの方々にご出席いただき盛大に開催することができました。これからも、このように祝うことができるように、質と共に経営が健全でないといけないと決意を新たにしたところです。

20周年を迎えると同時に、日本キリスト教社会事業同盟のケアハウス交流会の研修をここで開催できますことを感謝申し上げます。

「魅力発信経営報告書」(表紙)



2012年に「魅力発信経営報告書」を作成しました。この報告書は「経済産業省」と「財務省」が、中小企業向けに作成を進めている「知的資産経営の開示ガイドライン」を基に作成しています。

医療・介護方面では、私ども社会福祉法人が初めて作成した報告書といわれています。

この報告書は、数値では表し難い経営資源「知的資産」を、ご利用者・職員・取引先と言った、関係者に対し、事業価値向上に向けた活動を「目に見える形で分かりやすく伝える」「事業の将来性に関する認識の共有化を図る」ものです。

一般のパンフレットは、業種が分かる施設・職員の姿・利用者の姿等が主であり「どのような理念」「どのような運営の方法」「どのような経営内容」等を伝える物は見当たりません。それらを多くの関係者に見ていただき「社会福祉とは魅力ある団体・組織」とPRすることが狙いです。また求人対策としての目的もあります。

「法人全体の顧客価値創造プロセス」

1ページ目は「法人全体の顧客価値創造プロセス」になっています。「顧客の視点」と「人材学習の視点」の2つの視点から捉え考察しました。

「ここに暮らしていれば、様々な身体的・社会的変化の中にあっても、自分らしく生きていきたいと言う希望が適えられる」を、顧客の視点と捉えて作成しています。単なる「介助してくれる」以上の視点を掲げ、その希望をどのように叶えていくかを具体的に示しました。その目標は「自立支援、予防から、重度介護、認知症介護まで、地域で暮らすための



包括的なケアを提供していきます」です。

顧客の希望を叶えるのは人材です。「仕事や職場を通し、自己実現ができる人材の育成の仕組みがあり、成長を感じられることが出来ている」を人材学習の視点として職員が感じることが、顧客の視点を解決する為に必要な事と考えます。

そのために、「組織資産」、「人的資産」、「関係資産」、「多様な介護サービス」の4つの資産を活用してそれらを叶えて行く必要があります。この目標は、「計画的で持続的な新規事業や新規サービスの開拓とそれにチャレンジできる職場風土がある」ということです。

「組織資産」

- ビジョン経営: ビジョンが明確であるかどうか。私たちの行く先、行き先は示されているかどうか。どこに行くのか。どうしようとしているか? 行き先を示しているか?
 - 計画的な経営: 3年・5年先を考え「人」「モノ」「金」を運用し、どのように行おうとしているかを具体的に表しているか。
 - 健全な財務: 健全な財務であることです。そのためにどうするのか。
 - 変化対応力: 変化に対応できる柔軟な組織であるか。あるいは、身軽な組織であるのかないのか。重層的で重いとなれば硬直化して行きます。フットワークが軽いかどうか。
 - 計画的な人材育成: 計画的な人材育成を問う仕組みがあるか。
- 以上が組織資産と考えています。

「人的資産」

- 迅速な意思決定: 朝令暮改(ちょうれいばかい: 命令や方針が一貫せず、すぐに変換すること)ばかりでは進みません。迅速な意思決定が必要です。
- イノベーション力: 変革力です。3年ごとに介護保険も変わります。これからの世の中、どのように介護保険が削減されて行くのか。その中で、どうして行けば良いのかを考え変革して行かないといけません。そのような行動を、自らが起こして行こうとしているかどうかです。

- 積極的な人材育成:育成の為の研修、専門性の高い人の雇用、育成・専門性を高めたり、職場異動を活発に行っているのか。また、職場異動を通して人材育成あるいは法人の一体化等が図れているのかも考えて行く必要があります。

「関係資産」

- 家族・地域を大切に:家族・地域との関係に対して、家族との良好な関係、地域は私たちをどのように見ているのだろうか。
- ボランティアとの共生:一緒にやって共生出来ているかどうか。お願いばかりしていないだろうか。ボランティアの意見を入れて私たちの運営をしているか。
- 行政との連携:行政に私たちの行動を理解していただき支持をいただくこと。関係性を良くしておかないと、新たな試みが難しくなります。
- キリスト教同盟:日本キリスト教社会事業同盟の皆さんの知恵や力をお借りしたいと思っています。
- 専門家の活用:会計については、新会計基準が複雑になり、ややこしいことから、大手の会計事務所と契約しました。介護については、指導に来ていただき、介護の見直しを行っています。プロの意見を取り入れた方が、専門性を高める成果は早いです。企画面では、中小企業診断士も雇用しています。この様な人材をラインの職員に入れてしまうと、目の前の仕事しかできなくなります。目の前には仕事が多々あります。長期的な視点に立って物を進めて行く為に、特化した仕事にしないと難しいです。専門家の活用は、この様な事を考え、対応しています。

「多様な介護サービス」

多様な介護サービスへの対応を考えた時、当法人の本体施設ケアハウスは「事業運営の中心」であると改めて感じました。包括ケアを行うため、在宅サービスを進めてきましたが、ケアハウスが無ければ、株式会社の第2種の福祉事業と同じと思います。ケアハウスに入居している人たちの生活環境を良くするために考え行ったことが、在宅サービスにも転用できました。ケアハウスと同じ考え方で地域にサービスを提供して行ったところ、地域も非常に良くなりました。本当にケアハウスを運営していて良かったと思います。

当法人の介護サービスとしては、ケアハウスのほかには、在宅介護サービスは、グループホーム、小規模多機能型、地域支援事業等があります。

新たな取り組みとしては、10月より、地域の人に開放するスペースを作りました。週1回カフェを開いています。これからはパソコン教室、子供食堂、認知症家族の会等、自由に使っていただく事を考えています。

「法人経営の力(組織資産)その1

この図は、「法人経営の力(組織資産)」を表しています。

ビジョン経営とは、「老老介護、認知症、独居など、高齢化社会で生じる様々な状況になっても、誰かに見守られ、自分らしく生きられ、安心できる地域づくりの重要な社会的なサービスや介護サービスを提供する」ことです。それを、ビジョンと実績で見ました。ビジョンでは「エリア戦略」「事業コンセプト」「人材戦略」と3つに分けて考えています。



「エリア戦略」

湖南省は5万4千人で、平成16年に合併によってできた市です。高齢化率20%程度。団塊の世代が多く、10年15年先は一気に高齢化します。隣町は甲賀市。当法人はその2つの地域で運営しています。

隣町に出て、当事業所は良いサービスを提供していたことを実感しました。すぐに成果が出て、稼働率も収益も高い。我々のサービスは非常に優秀だと分かりました。よそに出る事で、地元では分からないことが分かり、出るのは大事だと感じました。今も近隣で物色しており、中長期的にどこのエリアで行うか検討中です。

「事業コンセプト」

事業は、在宅支援と認知症ケアの二本柱での運営を考えています。

また事業所を作る時は、グループホーム・デイサービス・ケアプラン位の、あまり大きくない複合事業所を考えています。単独の場合、人材の確保や収支が厳しくなります。それなりの規模にし、よりコンビニエンス的な物を作れば、地域の中の施設となり、動きが良く、施設に入りやすいと考えます。

「人材戦略」

職員採用に力を入れています。新卒は大卒の定期採用に尽力しています。中途は、あらゆる角度で採用を行っています。例として、相談員希望者が来た為、相談員で採用。だけど「相談業務ってこんな難しいとは思わなかった」と言うので、前の職種を聞いたらヘルパーですと、ではヘルパーに戻るかと確認し、3ヶ月も経たないうちにヘルパーになりました。相談員で採用しても相談員が出来るか分かりません。一度やってもらい、難しいなら戻す。ヘルパーも人手不足だったのが解消できました。そう言う事もあるので、いろいろ多様な仕事をしていると、いろいろな職種が採れると言う面があります。採って適材適所に回して行く。それから高度な専門職、事務長を10月1日から採用しました。前の会社では総務部門をやっていました。これからは総務と言うのは大事なので、人事・総務を中心にやって欲しいと考えています。また、本部で企画業務を行っている職員は、事務機の営業マンでした。非常に優秀だったから、当事業所に来てもらいました。介護保険等の営業で、近隣のケアマネージャー・病院等に行ってもらっています。そういう多様な人材を使っています。当事業所の現場は、新しい体質の人間が来てお

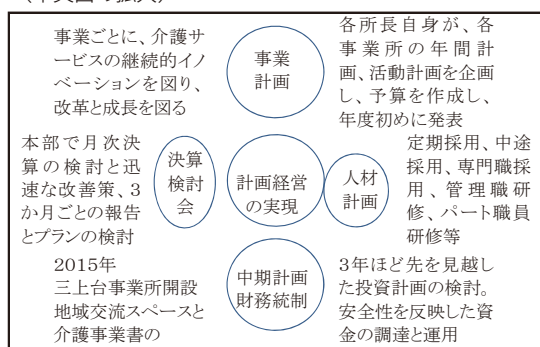
り、活性化していると感じます。

「法人経営の力」(組織資産)その2 「計画経営の実現」



この図は、「外部環境の変化(介護報酬の基本報酬のマイナス改訂、地域包括ケアの転換等)に迅速に対応」を表しています。

(中央図の拡大)



組織をどのように動かして行くか。私が以前勤務していた会社は「計画ありき」で事業を行っていました。そこでは「事業計画が達成出来なかったのは、事業計画が甘かったから、なぜ、このような甘い計画を作ったのか。計画通りやらないのは『罪悪』』と言われていました。「計画通り行うのは当たり前」、そのような会社で29年程働きましたが、計画通りに行くのは至難の業でした。しかし計画ありきです。「計画を作って、出来なかったら見直すのが仕事」と肝に銘じています。

近江ちいろば会の仕事も「計画をしっかりとすること」「計画を部門別にしっかりと作ること」としていますが、現場の管理者に「収入」「支出」「収益」の全部の数値を入れてもらうのは至難の業です。現在15事業所の計画を作っていますが、それらを集めて、事業計画検討会をして確認し、合意したものを理事会にかけます。

これらを作成するには、非常に手間がかかります。毎月決算報告会を実施することはもちろん検討会を、4月～6月・7月～9月など、3か月に1回実施し「計画はどうだったか」「何が良くてできたか」「何が悪くてできなかったか」「ではどうするのか」と言うPDCAを行い、計画の見直しを図っています。

先読みをし、先の行動を管理する。先行管理を考えさせる。これが人材育成と考えています。

これを行わなくてはなりません。目の前の仕事を一生懸命

命頑張って行っている、成果が出てこない、良い仕事は続けられません。先をしっかりと管理することが大事です。経営が上手く行くと、計画が甘くなるから問題です。もっとしっかりとやっていく必要があると思います。

中長期計画については社会情勢等が大きく絡む為、計画を立てるのは難しいことです。最近では投資のコストが非常に上がっています。物資・人件費が高騰しています。同じものであっても、2～3年前に比べ資金がかかります。職員を集めるのも大変です。しかし、計画を作らないと成り行き経営になります。難しくても計画は作らないといけないと考えます。

「法人経営の力」(組織資産)その3



「サービスの展開」

当法人の事業のサービス展開ですが、「ケアハウスピスガこうせい」を中心に、ここからスタートしました。「グループホームほだいじ」、この建物は外山義先生が設計された非常に立派な建物です。「小規模多機能居宅介護事業所ほだいじみんなの家」。隣の「みなくちみんなの家グループホーム」、これは昭和2年に建てられた木造洋館建ての3代続いた地域では有名な産婦人科の建物で、その建物が廃屋になっており、町の人も困っていたので購入しました。町の真ん中にあるお洒落な建物なので、町の人も非常に喜んでくれて再生することができました。

平成18年に地域密着型が出たので、市役所の近くの隠居さんの家を買って「認知症デイサービス」を行いました。認知症デイサービスの運営が厳しい所が多いようですが、ここは、多くの利用者が来られ、非常に採算が良いです。作業療法、レクリエーション等、色々と役割を持って対応しています。

以前は、ケアハウス内の部屋で、認知症デイサービスを行っていたのですが、固い鉄筋の中では、いくら工夫しても認知症のデイサービスは難しい。この部屋では認知症は向かないだろうと判断し、2015年10月1日に移転しました。この地域で有名な料亭がありましたが、バブルが弾けてから客が入らなくなり店を閉じました。多少大きいから誰も買わず、長い間売りに出ていました。良い建物なので、これを認知症デイサービスにしようと購入しました。ここは、夕食も食べて帰って下さい。9時間サービスやります。9時から18時までやります。延長料金も取りません。どうぞ自由に。地域の人でお風呂に困っている人がいたら、どうぞ入って下さい。と言う何でもあり。地域の人に貢献して行こう。と言う考えで10月1日から始めました。ケアハウス内で行って

いた時、認知症デイサービスは低迷していましたが、この計画により、将来的には人気は上がって行くと思っています。畑やテラスを作り、そこでお茶を飲めるようにしたい。色々工夫して行きたいと思っています。

この建物の改修時、対面キッチンを導入しました。洗い場を前と後ろ両方につけ、利用者に作業をしてもらえるようにしました。利用者をお客さんにするほど気の毒な事はない。利用者は家に帰ってもお客さんでいたら何もしない。ここでは、家に帰ったら働くようにしてもらおう。と言うコンセプトで「お客さんにしないデイサービス」を始めました。サービス提供方法や考え方等、職員の意識を変えるのは難しいです。でも変わって下さいとお願いしています。責任者の力の入れ方次第で、状況は大きく変わります。

「地域ケアの中核的社会的資源として」

自分らしく安心して暮らし続けるため、「自立と自助支援サービス」として、ケアハウス・高齢者支援センター。「在宅介護・医療サービス」として、訪問介護・介護(予防)のデイサービス・居宅介護支援・小規模多機能。「認知症介護サービス」として、グループホーム・認知症デイサービスを展開しています。



在宅介護・医療サービスや認知症介護サービスはダブっている事業所もあります。訪問看護は、3年前にやり始め、やっと収支が出るようになりました。今後、在宅介護を支える武器の一つになると思います。デイサービスは、認知症のデイが2つ、一般型2つ、予防と5つのデイサービスがあります。機能訓練のリハビリ的な「元気な人が頑張る」そういう楽しいものが出来ないかなと思っています。

今、体操の先生にお世話になりまして、サービスする職員、機能訓練する職員を体操の先生の所に勉強に行かしています。その人は有料で体操教室を開いています。そこに行って「プロフェッショナルになれとはいませんが、しっかりした体操を勉強してきて」と、そうすると同じ行為をしているようでも専門性が高まったのか、人気が出てきました。専門性を高めるため色々な人と組んで行きたいと思っています。

「近江ちいば会の成長ストーリー」

「創業前期」(～1993)

トピックス	京都市の世光教会の牧師であった後宮俊夫が、教会の老婦人達の生活をどう守っていくのかを真剣に考えていくなかで、紆余曲折を経て、現在の滋賀の地(菩提寺)に、土地を得た。
人と戦略	後宮俊夫牧師の発意、構想力と強固な意思により、ゼロからの挑戦が始まる。教会有志による建設基金の募集を開始した。
事業内容	土地の調査、保安林の解除、社会福祉法人の設立認可等

後宮俊夫先生が日本基督教団世光教会の牧師をされていた時代です。教会の老婦人達の生活をどう守っていくのかを真剣に考えていくなかで、紆余曲折を経て、現在の滋賀の地(菩提寺)に、土地を得た。ゼロからの挑戦が始まり、教会有志による建設基金の募集を開始した。

「創業期」(1994～2000)

トピックス	1994年6月29日に社会福祉法人設立認可を受け、ケアハウスの建設に着手。1995年9月1日より、事業を開始した。2000年に介護保険が施行され、法人の経営は、措置制度から契約制度(実績主義)へと転換された。
人と戦略	措置制度による高齢者福祉行政の委託事業として、ケアハウス、在宅介護、配食と認知症に特徴を持つデイサービスを開始する。
事業内容	ケアハウス、デイサービス(一般型、認知症型)、在宅介護支援センターの事業を開始する。1996年に配食サービス、1997年に、ケアハウスに限定したホームヘルパー事業を開始した。2000年からは、ホームヘルパー事業を地域に拡大した。

1994年に社会福祉法人設立認可を受け、ケアハウスの建設に着手。1995年9月1日より、事業を開始した。ケアハウスの定員は50人、デイサービスを併設してスタートしました。理事長宮田誉夫、後宮俊夫は館長に就任し経営にあたる。介護保険制度の始まる前の措置制度の時代です。ケアハウスの入居者8人から始まりました。

「混迷期」(2001～2004)

トピックス	京都大学の外山義先生の出会いを受け、当時の先進的グループホームを建設する。内部的には、それまでの措置制度の意識が抜けず、経営の仕組みづくりが不十分であり、経営陣への厳しい批判、対立が起こり、資金面でも逼迫する。
人と戦略	認知症対応を一層進めるため、グループホームの建設に着手。後宮の構想実現力が発揮された。契約制度に対応した経営を目指し、森口茂が2004年4月に館長就任。松下電器OB武本勉氏により、財務面の改善を行う。
事業内容	2002年よりグループホーム事業を開始した。

グループホームを作った時期です。資金がショートしました。経営は悪くありませんでしたが、資金がショートして、銀行からの借入れができませんでした。理事や知り合いに借金をしてしのぐことができました。非常に辛い時期でした。その時に「給与を下げる」「賞与月額を下げる」と言うと、従業員も良く思わなくて当然です。そういう時は上手く行きません。経営が上手く行かない時期がありました。2004

年4月に後宮俊夫が館長を退任し森口茂が就任しました。

「改革期」(2005～2007)

トピックス	森口館長を中心として松下電器(株)時代に体験してきた部門別計画経営の導入に取り組む。利用者の視点に基づく経営の改革、個人目標や面談制度などの人事制度、賃金制度の改革に着手した。
人と戦略	経営の透明性を構築した。職員の経営や事業への参画意識を高め、資金と人材の蓄積に力を注いだ。ケア業務中心の外部研修から、内部の階層別育成、管理職育成に注力した。
事業内容	2007年に、これまでの中心地域であった菩提寺北中学校区の外に、地域密着型小規模デイサービス「しんあい」を開設した。

今まで措置で運営していたので、契約社会での運営ができていませんでした。その改善のために、これまでの出来高から部門別計画経営に取り組みました。京セラの会長はアメーバ経営と言っています。大会社でも10人から20人で収支を考え、時間あたり、人数あたり等をしっかり見ていきます。細かく現場を見ていくことにより、効率を上げ、採算が取れるようになっていくのです。そのようなことで「部門別収支」を行いました。

「充実期」(2008～2010)

トピックス	計画経営の浸透、継続的計画的な研修や人事制度による人材育成、既存事業の成長等により、人モノ金の経営資源の充実を図る。
人と戦略	成長に必要な人モノ金の経営資源の蓄積に努めた。ワークライフバランスに取り組むなど、人的資産の形成に努めた。
事業内容	既存デイサービスの定員を増加した。

少しずつ改善して行き、体力を蓄えた時期です。「人材を貯める」「お金を貯める」「ノウハウを貯める」このような時期が3年程続き、法人の緒体力をつけることができました。

「成長期」(2011～)

トピックス	2011年小規模多機能居宅介護の開設、訪問看護事業の開始、湖南市以外に、初めて介護事業を実施するなど、新事業への取り組みが活発となった。
人と戦略	改革期の人材育成が成果を現してきた。新事業を担う人材が育成されてきたタイミングで、財務の健全性も確保されてきたため、新規事業への投資が可能となった。
事業内容	2011年小規模多機能居宅介護「ほだいじみんなの家」を開設。2012年甲賀市にグループホームとデイサービス、居宅介護「みなくちみんなの家」を開設。2012年訪問看護ステーションを開設し、在宅医療への取り組みを開始した。

改革期の成果が表れて、新規事業に着手しました。2011年小規模多機能居宅介護施設を開設。2012年には甲賀市にグループホームとデイサービス、居宅介護事業所と訪問看護ステーションを開設しました。

「変革期」(2015～)

トピックス	2015年介護報酬改定で、基本報酬が引き下げられる一方、重度者、認知症、生活機能向上などに、より専門的なケアが重視されることとなった。地域包括ケアの実現に向けた新たなアイデアや取り組みが求められる時代となる。
人と戦略	機能訓練指導員の採用、介護職員による運動療法の知識や能力向上、重介護対応にむけた喀痰吸引研修など、専門的職能の充実に取り組み始めた。
事業内容	法人内の情報システムの刷新、クラウド型システムの導入など、生産性の向上に取り組んでいる。湖南市菩提寺東地区に、民家改修による複合型介護事業を開始した。認知症対応デイサービス「いこい」を、街中で実施した。地域交流スペース「地域の我が家」にて、地域の人々への支援を開始。

これからは変革の時代になって行きます。今までと違い介護保険の収入もどんどん減らされて行きます。その中でどう運営して行くのか。今までと違った進め方が必要ではないかと思っています。

「業績推移」



この表は、創業以来20年間の業績です。創業時は苦勞していたと言う事が分かります。折れ線が職員数、縦棒が収入と収支差を表示しています。

単位：収入(千円) 職員(人)

年 度	1995	1996	2000	2002
収入	52,379	178,042	323,912	377,489
収支差	-21,867	-57,983	25,266	27,204
職員	21	27	68	69
備考	9/1開設	年間	介護保険	グループホーム

年 度	2007	2011	2012	2014
収入	397,316	536,686	658,826	605,306
収支差	33,019	47,194	69,321	65,403
職員	80	112	153	170
備考	しんあい	小規模	訪問看護	

当法人の場合、新規の事業に投資をした時に収支が上がっています。投資して上手に経営していくことが大事なことと思います。

しかし、全てが上手く行っている訳でなく、事業によっては、赤字の所もあります。それをどうするか。日産のゴーン社長が日本に来た時に、リバイバルプランと言うものをやりました。日産を回復するためにリバイバルするのだと。当法人もリバイバルプランを2つの事業所で行っています。

実績が出てきている所もあります。事業所に任せるだけでなく、多様な知恵を出して挙げないと改善につながりません。施設長・企画職員・ケアマネージャーを入れ、その事業所と一緒に進め方について検討し、実行して行く。このようなやり方で、リバイバルプランを行っています。

ここに至る経緯として、私の反省ですが、若い管理者を、管理者として教育していませんでした。私が営業マンの時は、一年間先輩のカバン持ちをして「玄関での挨拶の仕方」「名刺の渡し方」「商談の資料の作り方」等を一年間教えてもらい、一人で行って来いと言われ、行かされました。そして、主任や課長になって行きました。このような仕組みがこの世界では少ない。事業を作った人が管理者をやり、何となく一生懸命やったが、その実態をみると基本が出来ていない。教えてなかったことが分かりました。このリバイバルプランやって非常に良かったと思っています。

「法人経営の力」(人的資産)

「人材育成の取り組み」

人材育成については非常に力を入れています。

私はここへ来てビックリしましたが、福祉の業界は研修がもの凄くあり、勉強ばかりしています。相談員はどこに行っても勉強ばかり。私は以前の会社では研修はそれほどありませんでした。1週間も2週間も勉強に行ったという記憶はそれほどありません。「自分で勉強して」でやってきました。

福祉の業界の研修は「どうして、どうする」「介護の移乗の仕方」「認知症に対して」等のハウツウが多く、考え方の研修がないのです。

「所長・主任研修の実施」

昨年、松下幸之助資料館で、松下幸之助の「人の使い方」「リーダーとしての在り方」を勉強してきました。延べ36名。2日に分けて主任・所長・管理者が行きました。資料館館長の講義を聞き非常に有意義なものとなりました。考え方をどう身に付けるか。今後も行っていく必要があると感じています。



「パート研修の実施」

パートの研修が少なかったのが、パートの研修を一から考え、日中、パートの研修時間を割いて社内講師で行っています。



「最新の介護研修」

本に出ている有名な先生を外務講師に招いて、自立・自助を基本に、環境づくり、関わりの仕方を学んでいます。この様にして、知識・考え方を深めています。



「業務改善活動で学ぶ」

QC活動を8年間行っています。業務改善について、職場内の改善が上手く行かないと言いますが、改善の仕方を知らないから進まないのです。改善の仕方は「現状分析」です。現状はどうなっているかを数値で分析し、それは何でそうなるのか、その要因は何かを挙げます。そして、改善する為にどうすれば良いかの対策を出し、対策を出したら、数値で確認します。数値で上がり下がりを確認するという頭脳、考える力をつけなければなりません。このQC活動は、最低でも10年やらないといけないといわれています。少しずつですが、業務の改善を進めています。



「その他の人材育成」

接遇委員会、感染症委員会、安全衛生委員会、人権研修等で研修機会を設けています。また、自主勉強会として、ケアマネ勉強会、P C教室があり、自己研鑽も楽しく行っています。最近では、車いす車両が増えたことから、ダイハツをお願いして、車いす車両の講習会を行いました。講習を通じ、意外と危険な運転していたことが分かりました。またディーラーが来ることによってこのような講習はやり易いし、業者は「当事業所みたいに熱心に来てくれる所は少ない」と喜んで来てくれます。

「法人経営の力」(関係資産)



入居者、利用者との関係、ご家族との関係、ボランティアや他の事業者、地域の関係を作っていくことをしています。ここで培われたものが法人経営の力としての「関係資産」です。

- ご家族との関係づくり：グループホーム、小規模多機能型ほだいじみん家の家、中央デイサービスでは、家族会を開

催し、様々な相談や要望をお伺いし、ご利用者、ご家族、職員が、同じような気持ちで対応できるようにしています。

- ケアハウスの住民が運営する喫茶：ケアハウスの住民がボランティアとして、喫茶店を毎月開店してくれています。デイサービスの利用者や職員が、昼間のひと時を、薫り高い飲み物とおやつで過ごさせていただきます。
- 他事業所との交流：湖南市の介護事業者の勉強会である「ほほえみネットこなん」、小規模多機能型事業所連絡会、NPO法人街かどケア滋賀ネットなどに、積極的に参加し、悩みや改善策を話し合っています。
- 地域との交流づくり：幼稚園、学童が施設に来てもらい交流の機会を持ちます。クリスマスには、草津市の幼稚園児たちがクリスマスページェントを開いてくださいます。また、年に1回、地域住民にも広く参加していただける講演会を各種団体と共催で開いています。法人の納涼会には、地元の方も気軽に来ていただいています。

「将来ビジョン」(成長ストーリー)

「将来ビジョン」を「外部環境の変化」、「組織資産」、「人的資産」、「関係資産」と「財務面」について、現状はどうか、そして1年後、3年後、5年後に向けて「成長ストーリー」として見えています。

「外部環境」の面から

今からどのようにして3年間生き残って行くか。次の改訂は医療と一緒の同時改訂となります。かなり下がるのではないかとわれており、生きる道はどこにあるのかを考えなくてはなりません。またマイナンバー制度になり、ケアハウス入居者や介護保険サービス利用者の資産状況が把握されます。資産1000万以上を持っている方が捕捉され、2割負担になる方が結構おられると思います。年収は少ないが資産は持っている。このような人が結構出てきて、介護の利用者が減るのではないかと懸念があります。そのような背景、外部変化により環境が変わってきます。また貧困者の増大や職員の人手不足がますます増えるでしょう。人手に頼らない介護が有るのか無いのか等々、よく分かりません。外部環境の変化を捉えておくことが大切です。

「組織資産」の面から

当事業所は、現在認知症デイは良いですが、もう一つの一般型デイは課題となっています。その為、利用者のいろいろなご要望にお応えするデイにしようと、デイサービスの強化を図っています。また小規模多機能型事業所も浮き沈みがあります。一時は良いのですが、長期入院や施設に入居されると途端に稼働率が下がります。そこで、スポーツの先生に協力いただき、地域の人の為にここでスポーツのジムをやってもらうことを考えています。人に出入りしてもらい、役立つか分かりませんが、そういう事も考え楽しく仕事が出来ればと考えています。湖南市、甲賀市のほか、ニーズの高い周辺地域へ新拠点での事業所の開設、甲賀市にある拠点の展開なども考えています。また、厨房機能、介護支援設備の活用も検討しています。

「人的資産」の面から

多様な人をどう使うか？と考えています。テレビで80歳

のヘルパーさんのことが取り上げられていました。80歳のヘルパーさんが生活支援をしておりました。80歳でも元気だったらいいのではないのでしょうか。雇用の仕方も柔軟に行った方が良いと思います。それにやはり「良いリーダー」です。ケアワーカーは生産性があまり変わりませんが、良いリーダーによっては3倍4倍違ってくるとというのが実感です。管理職を育成することによって施設は絶対に良くなると思います。それをして行かなくていけないと思っています。その他には、専門性の高いPT・OT・あん摩マッサージ士・看護師が定着することにより、通所介護や訪問介護における日常生活機能が向上し在宅介護が良くなります。それから、私の後継者教育、管理者の育成、適正な配置をしていくことを考えています。

「関係資産」の面から

ご家族・ご利用者・事業者が中心です。さらに、行政、地域住民、各種団体、個人との共同作業、協力、連携を進めて行く必要があります。

「財務面」から

財務をある程度健全にやって行かないといけません。現状は、デイサービスの稼働率の低下、小規模多機能型事業所の収支低下が課題です。今後は、小規模多機能型の収支改善、デイサービスの収益性の強化を図っていくこと、さらには、小規模多機能型と複合型施設での展開や、特徴あるデイサービス、訪問介護の展開を考えていきます。

おわりに

11月7日に創立20周年記念として、地域講演会に永田久美子さんをお招きして「認知症と共によりよく暮らす」を開催します。これも先程の知的資産ではありませんが、広報活動の強化です。職員が一生懸命働いても、外から見たら分からない。見えないから見えるようにする工夫が必要です。昨年の2月には、老人ホーム附属診療所長をされている中村仁一先生にお願いして「長生きしたけりゃ医療に頼るな」という講演をしていただきました。中村先生の話はとても面白かったです。「孤独死より良い物はない」、「ヘタに医療をされると皆さんチューブつけられますよ」、「孤独死は別にしんどくないですから、孤独死が良いですよ」と、極端な話を言うのですが、そういう話が面白く沢山の人がいらっしました。自らの人生の終末の在り方を考える機会つくりになったのではないのでしょうか。年に1回くらいはこういう講演会をして、その時に「地域貢献ビジョン」をお話し、地域に対してメッセージを送って行きたいと思っています。

こういう事を、継続してやり続けることによって、まわりの人も理解してくれるのではないかと考えています。

第14回軽費老人ホーム・ケアハウス交流会
会場：社会福祉法人近江ちろば会
日時：2015年10月7日

地域貢献および交流活動

「みなくちみんなの家」の地域交流活動について

4年間の地域の方との交流について紹介させていただきます。

私たちが、大切にしてきたことは、まず事業所のある地域の自治会の一員になり、知って頂く事でした。

そこで、地域の行事である防災訓練や防犯パトロール、溝掃除、公園の草引き、百歳体操等に参加し、ご近所の方たちだけでなく、広い範囲で交流させて頂きました。

入居者の方たちは、近くのお菓子屋さんや肉屋さんに出掛けられたり、水口城跡のお堀の周りを散歩されています。

また、野菜作りもされています。隣の畑と続いているので、近所の方に野菜の作り方を教えて頂いたり、たくさんの野菜を頂くこともあります。

近くの小学校の依頼があり、小学生の集団登校の集合場所になりました。

小学生が集まる時間に、入居者の方たちと一緒に、子供たちと話をしながら見送っています。

地域の方からは、グループホームや認知症の事を教えてほしいと依頼を頂き、地区懇談会で、説明させて頂きました。

このような交流を継続することで、地域の方に知って頂けるようになってきました。また、認知症に対してのイメージも変わってきているのではないかと思います。

今後も「みなくち みんなの家」は、地域や行政、他の介護保険事業所などと協力しながら、認知症になっても自宅で暮らしていける様、取り組んでいきたいと思っています。

また、認知症の症状が重くなり、自宅で生活することが難しくなっても「みなくち みんなの家」があるから安心だと言って頂けるような事業所を目指していきます。



地域貢献および交流活動



「地域の我が家」「つどいCafé」「ふれあい楽舎」は、気軽な集いの場！



菩提寺東（三上台）に、地域交流スペース「地域の我が家」が出来たことをご存知ですか？

デイサービスセンターいこい事業所に併設して、6畳2室の和室を、地域交流の場として開放しています。

利用時間は、原則として月～土曜の午前10時～午後4時です。
現在は、「つどいCafé」と「パソコン教室」などが開かれています。

問合せ先：地域の我が家 管理者まで

湖南省菩提寺東4丁目1番5号 電話番号：0748-74-3902

つどいCafé

利用日：毎週金曜日午後1時半～3時半

「つどいCafé」は、湖南省の認知症地域推進委託事業として、認知症の早期相談、早期対応できるよう、認知症地域推進員が運営をしています。

地域の高齢者が気軽に集い、コーヒーやお茶を飲みながら、楽しく過ごしていただくカフェスタイルです。介護職員が常駐しているので、認知症のお話をしたり、介護の相談や困りごとなどもお聞きしています。お一人でもご友人とご一緒でも、誰でも利用して頂けます。



ふれあい楽舎とは？

介護予防で健康年齢を重ねることの大切さが語られるこの時、だれもが集い話せる場所、役割のできる場所が存在することが大切であること。そのことが人に生きる力を与えるのでないでしょうか。このことを実行に移すにはまず場所が必要です。ふれあい楽舎というこの場所を生かすための知恵と力を提供し合い、楽しい場所に創りあげていきたいと考えています。多くの人の力が必要です。よろしくお願いいたします。

定期活動として以下のような活動をしています。

- 1：喫茶とミニコンサート
毎週木曜日13時～16時
- 2：サロン恵み（健康を考えながらの食事会）月1回1000円
- 3：みんなで歌おう！の会
第3火曜日13時～14時
- 4：洋裁教室
第3水曜日午前・午後各2500円
そのほかにも不定期な活動があります
《連絡・お問い合わせは74-0005まで》



このステンドグラスを目印に！



住所：湖南省サイドタウン3丁目15-18 電話：0748-74-0005

各事業所 現在のスタッフ

ケアハウス ピスガこうせい



ぼだいじデイサービスセンター虹



法人本部



ぼだいじデイサービスセンターいこい



中央デイサービスセンターしんあい



ゆめとまの家 おしどり



グループホームぼだいじ



デイケアの家 おしどり



ぼだいじ訪問看護ステーション 高齢者支援センター ぼだいじ



ぼだいじ
ホームヘルプステーション



ぼだいじ居宅介護支援センター



厨房 ごちそうさん



小規模多機能居宅介護事業所 ぼだいじ みんなの家



みなくち みんなの家
グループホーム



デイサービスセンター



つどいCafé

ケアプランセンター
みなくちみんなの家&調理室



法人概要

社会福祉法人近江ちいろば会

〒520-3242

滋賀県湖南市菩提寺327番地4

法人 本部事務局 (代表) TEL:0748-74-3900

FAX:0748-74-3910

(HP) <http://chiiroba.jp/>

ケアハウス「ピスガこうせい」

TEL:0748-74-4006

FAX:0748-74-3910

ぼだいじデイサービスセンター虹

TEL:0748-74-3901

FAX:0748-74-3910

ぼだいじ居宅介護支援センター

TEL:0748-74-3993

FAX:0748-74-3994

高齢者支援センターぼだいじ

TEL:0748-74-4093

FAX:0748-74-3910

グループホームぼだいじ

TEL・FAX:0748-74-4144

小規模多機能型居宅介護事業所「ぼだいじみんなの家」

TEL・FAX:0748-74-4147

ぼだいじ訪問看護ステーション

TEL・FAX:0748-74-4040

〒520-3247

滋賀県湖南市菩提寺東4丁目1-5

ぼだいじデイサービスセンターいこい

TEL:0748-74-3902

FAX:0748-76-3905

ぼだいじホームヘルパーステーション

TEL:0748-74-3904

FAX:0748-76-3905

〒520-3244

滋賀県湖南市サイドタウン3丁目16-72

デイケアの家おしどり

TEL:0748-74-0005

FAX:0748-74-0403

〒520-3244

滋賀県湖南市サイドタウン3丁目8-33

ゆめとまの家おしどり

TEL:0748-74-8880

FAX:0748-74-8881



〒520-3234 滋賀県湖南市中央4丁目93番地 TEL・FAX 0748-72-6889

〒520-0023 滋賀県甲賀市水口町本丸2-54

みなくち みんなの家

グループホーム

TEL:0748-76-3092(代)

デイサービスセンター

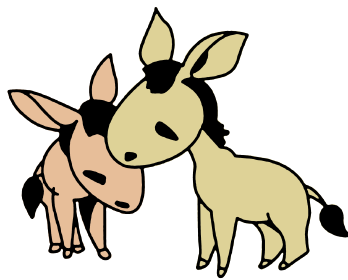
TEL:0748-76-3091

ケアプランセンター

TEL:0748-76-3090

(共通FAX) 0748-76-3093





社会福祉法人 近江ちいろば会

